

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月16日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒が主体的に学習に取り組み、分かることが実感できるような、組織的な授業改善を推進する。 ②外部の教育資源を活用した幅広い教育課程を編成する。	①組織的な授業改善の目標を「生徒主体の授業展開」と定め、生徒が主体的に参加でき、チームティーチング方式を生かす展開方法を追及する。	①総合学科の特性を活かし、チームティーチングによる授業展開など、生徒が主体的に参加できる環境を整備し、生徒それぞれの理解力やペースに合わせた課題設定や指導を行う。	①生徒による授業評価の項目6「生徒一人ひとりに目を配った、きめ細かい指導がなされている」の評価が、3.6以上(4点満点)になったか。	①生徒による授業評価の項目6について、2回の調査ともに3.6を上回ったのは2教科であったが、すべての教科で3.3以上であった。「生徒主体の授業展開」をテーマとし、公開研究授業を実施した。チームティーチングによる授業展開など、生徒にあった丁寧な取り組みが見られた。	①学習における習熟度の差や母語の違いから、多様な生徒への指導方法に向けて課題がある。チームティーチングをさらに活かすこと、個別対応を充実させることなど、きめ細かな対応で改善したい。	(学校運営協議会) ①生徒の満足度が高いことがうかがえた。さらに総合学科の良さをアピールしてほしい。	①少人数をいかしたさまざまな取り組みがさまざまな成果となって感じられた。方向性を維持しながら、さらに組織的な授業改善につなげることが重要である。	①これまでの取り組みを活かしながら、外部講師との連携を深めること、情報の共有化を推進することなどに努め、きめの細かい授業展開を目指していく。
2 生徒指導・支援	①個々の生徒の状況把握と情報共有によるきめ細かな指導体制を推進する。 ②自己肯定感の醸成による問題行動の未然防止に努める。	①支援のあり方について理解を深め、生徒一人ひとりの情報を的確に把握して課題解決にあたり、ケース会議での情報や支援の手法が職員間で共有する。	①個々の生徒の状況等を把握し、教職員間の情報共有と共通理解を図る。また、頻度の高いケース会議等の開催により、スクールカウンセラー等の専門家や外部関係機関、専門機関との連携を図る。	①ケース会議を8回以上(昨年度6回)を開催し、支援方針を全職員に周知し共通理解することができたか。	①SCやSSWの助言を得ながらケース会議を開催したが8回には至らなかった。外部機関との連携を図り、生徒情報の共有と共通理解が深められた。	①現在、活用している養護学校の巡回相談員・スクールメンターなどのとの連携をさらに充実させ、ネットワークの良い生徒の課題解決に努めたい。	(学校運営協議会) ①多様な生徒にきめ細かく対応している。あいさつや自己表現等が今後の課題であろう。	①SCやSSWの助言を、外部機関との連携を密にし、支援を必要とする生徒の課題解決に努めることができた。さらにきめ細かい支援を推進したい。	①SC、SSW、スクールメンター、養護学校の巡回指導員との相互連携をさらに深め、より良い支援体制を目指したい。
3 進路指導・支援	①基本的な学力を充実・向上させ、進路希望を達成させる。 ②社会人としての自覚と勤労意欲を育成する。	①社会人として必要な要素を理解し、自覚を持って社会へと出られるよう支援する。	①外部講師による「産業社会と人間」の授業等の回数を昨年度よりも増加させ、職種による必要な知識の違いを理解させる。	①外部講師による授業展開の回数や内容が昨年度より多く充実したものであったか。	①外部機関との連携によるキャリア教育を「産業社会と人間」の授業を中心に実施した。また、学校外の学修や福祉科目など、外部の方との接点を持つことにより、生徒のキャリア意識を向上させることができた。	①外部教育機関との連携をさらに充実させ、より多くの機会を提供し、職員のスキル向上につなげていきたい。	(学校運営協議会) ①外部機関との連携を深めることにより、生徒のキャリア意識の向上が見られた。	①様々な場面で外部機関との連携を活かした取り組みを行うことができた。これまでの取り組みを活かしながら、キャリア意識の十分でない生徒たちにとって刺激となるような取り組みが行うことが重要である。	①これまでの取り組みを活かしながら、さらに外部機関との連携を密にし、生徒のキャリア意識につながるような取り組みを目指していく。
4 地域等との協働	①保護者や近隣地域との協力体制を推進し、教育活動を積極的に外部に発信する。	①地域清掃等の地域貢献活動によって、近隣地域に信頼される取組を進める。 ②コミュニティ・スクールのシステム構築を図る。	①地域貢献活動等の機会に、全生徒を積極的に参加させ、事後アンケートにより、生徒の自己肯定感について調べる。 ②学校運営と密接に連携できる形態、地域の人材の有効活用の方策を確立する。	①8割以上の生徒が地域清掃に参加し、自己肯定感を高めることができたか。 ②学校運営協議会を年3回以上開催し、意見を集約することのできる機会を設けたか。	①8割の生徒が地域清掃に参加し、地域住民から声をかけられることにより自己肯定感を高めた。 ②学校運営協議会を年3回以上行うことができた。またキャリア部会を中心としてかなテクの授業見学、キャリア講演会を行った。	①生徒会主催での通学路清掃をさらに充実させ、地域に貢献できるような支援したい。 ②学校運営協議会をさらに活用し、コミュニティ・スクールによる地域との協働につなげていきたい。	(学校評議員) ①地域との連携による通学路清掃を計画できた。天候により中止となったが、地域に貢献することの意義を認識する場となった。 ②学校運営協議会を活かした取り組みを行うことができた。	①8割以上の生徒が地域清掃に参加し、自己肯定感を高めることができた。 ②学校運営協議会を活かした取り組みを行うことができた。来年度さらに継続して取り組むことが重要である。	①地域との連携をさらに深め、地域に貢献することの意義を将来にわたって認識できるように支援したい。 ②今年度の取り組みを活かしながら、地域との協働につながる取り組みを目指していく。

5	<p>学校管理 学校運営</p>	<p>①職員の学びあいによる人材育成を推進する。 ②外部連携による総合学科高校としての充実を図る。</p>	<p>①総合学科の充実を図るために、職員構成に応じた業務分担を行うとともに、継続的に業務運営できるように引継ぎを工夫する。</p>	<p>①職員構成に応じた業務分担を行い、効果的な業務引継シートを作成し、事故不祥事を防止する。</p>	<p>①全職員が業務引継シートを作成し活用することにより、事故不祥事の件数がゼロであったか。</p>	<p>①職員構成に応じた業務分担を行った。業務引継シートを活用し、相互に協力しながら業務を進行することができ、事故不祥事をゼロにすることができた。</p>	<p>①事故不祥事防止を念頭に置きながら、業務引継シートを充実させるなど、さらに効率的かつ確実な業務の進行を進めていきたい。</p>	<p>①様々な場面で事故不祥事防止を念頭に取り組むことができた。</p>	<p>①さまざまな場面で事故不祥事を念頭において取り組むことができた。今後も継続して事故不祥事防止に取り組むことが重要である。</p>	<p>①計画的に研修を行うなど、全体の意識喚起につながる取り組みを継続していく。</p>
---	----------------------	---	---	---	--	---	--	--------------------------------------	---	--